

灯



今年も3・11が過ぎて1カ月。あの東日本大震災から早くも6年の時が過ぎたがいまだに復興途上という報道を多く聞く。加えて避難した人たちもまだ多数いるとのことだ。

3・11が発生した

直後からその被害の甚大さに日本中が「息の長い支援」が必要だと認識が高まった。縁あって福島、宮城、岩手の被災3県といわれる地域を訪ねる機会を得て、被災者の体験談や被災地で見られることのできない映像などに加え被災地そのものを見ることができたことで、何とか支援を継続しなければ、という思いを強くした。

一方、津波以上の災厄でもある東京電力福島第1原発事故の

支援の長い息



草野 義輔

影響は甚大と思う。特に福島県から避難した子どもたちへの差別やいじめには不愉快極まりない思いだ。震災直後から福島県の農作物が消費者から敬遠されたことも記憶に残る。その対策として国会や東電の食堂などでは率先優先して福島産を活用しよう、という動きもあった。国

として東電として当然と思ったが最近はトンと聞かない。報道もされない。福島に友人を持つ身として気になるところだ。息の長い支援は被災地に居住する人たちが将来へ希望の持てるよう、つなげていくことだと考える。

事故の当事者として国や東電の食堂は息の長い支援をしているのだろうか。当然のこと、として継続していると信じたい。

(昭和学園高校理事長・日田市)